2018
12
Vol. 22

東北工大建築学科通信

Monthly Report of Department of Architecture

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

発行：東北工大建築学科　学科長　石井敏

Pick Up News いよいよ冬休み。年末年始、実家に戻りゆっくり過ごす人、旅行を計画している人、アルバイトに勤しむ人、それぞれ有意義な時間を過ごし、リフレッシュして新年、元気に顔を見せて下さい。12月20日に開催した企業OBOG交流会は建築学科独自の企画・行事です。2年前の建築学科50周年を記念して実施したのが始まりですが、今年が3回目の実施となりました。全国で活躍する卒業生と在学生、学科、建設関連企業とが一つになって交流する機会。これから進路を考える3年生と大学院すべてが参加しました。多くの企業、そして卒業生が本学科を応援して下さり、そして皆さんが社会で羽ばたき、活躍することを期待してくれています。東北工大建築学科で学んだ学生なら間違いない。社会はそのように評価して下さっています。皆さんも先輩に続いて歩んで下さい。それでは良いお年を！

20年4月に建築学部

東北工大が構想中

北関東以北で初

新たな時代に向けて建築学現すれば北関東以北、東北北のさらなる発展を――。東北海道で初の建築学部となる。工業大学（仙台市、今野弘学現行の工学部建築学科から独長）は、2020年4月に建立させ、工学部とライフデザ築学部の設置を構想中だ。実イン学部との3学部体制に再編する考え。19年4月に文部科学省への学部設置届け出申請を予定している。

建築学科は1966年の創設以降、時代の変化の中で〝建築〟に求められる社会ニーズに柔軟に対応するカリキュラムを編成し続けながら、約8000人の卒業生を輩出。本拠地の仙台を始め、東北および全国の建築界で活躍する人材育成に貢献してきた。

〝建築〟に求められる領域がさらに多様化していく将来を見据え、工学にとどまらない新たな学際領域の学問としての確立とより充実した教育を目指す。

建設通信新聞20181217

【留学生を交えた雪国研修（12/15-16）の実施！】
恒例の雪国研修 in 山形蔵王。国や研究室、学年を超えて多くの学生・教員が参加しました。

【二級建築士合格！】
現役大学院生での二級建築士合格。今年は茂木公佳さん、鈴木杏南さん（いずれもM1, 石井研）の2名が合格を果たしました！平成30年度の合格率は25.5%でした。

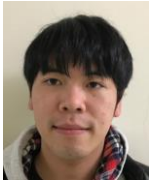
【まちづくり実践学開講中！】
太白区と本学との共同講座《地域の魅力創出のためのまちづくり実践学》。多くの建築学科学生が参加。不破講師主導のもと地図づくりワークショップなど行われています。

【OBOG交流会開催！】 12/20に建築学科の重要行事の一つ企業OBOG交流会が開催されました。79社190名のOBOG関係者が参加。3年生，M1全員が参加し、進路、業種・職種の相談を通して、自らの進路を考える重要な時間となりました。

【建築設計コンペで大学院生2人が最優秀・優秀賞を受賞する快挙！】
日本建築家協会東北支部主催のランドマークコンペ（蔵王町遠刈田温泉ランドマーク設計競技）で高橋雅人君（M2福屋研）が「1000の窓がある看板」で最優秀賞、青柳樹君（M1石井研）が優秀賞を受賞！おめでとう。
（左が高橋案、右が青柳案）

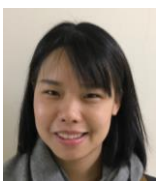
Pick Up Lab. こちらは**曹研究室**でございやす。創立したばかりの研究室であるため自分達の歩いた一歩が研究室の礎になると信じ躍起になっている三年生10名と、学生と間違われてしまうほどの甘いルックスの持ち主である曹先生の計11名で研究しています。研究室では自由な環境でゼミを行っているため常に新しい発想が飛び交い、白熱した討論になってしまうので周りの研究室から苦情が来てしまうことも。。。近々チャーハン料理対決が開催されるので皆様楽しみしていてください！最後に下級生の皆様、曹研究室では今まで誰もやった事がない研究に挑戦するやる気のある学生を募集していますのでぜひ研究室選びの参考にしてください！(B3 小島 隼人)。

曹研究室メンバーとゼミの様子



3年 今野祐舞くん
塩釜高校　出身

Pick Up Student 私は大学に入ってから建築を学び始めましたが、そこでわかった事があります。それは建築は1人でやるものではないということです。建築は様々な分野が総合した学問です。当然、覚える事も非常に多く、真面目に取り組んでいてもわからないことが出てきます。しかし、そういった自分だけでは理解に及ばない事も友人や先生と相談、協力することで解決に導く事が出来ます。またこのように、誰かと話し合い学習することは己の得手不得手を把握する事、自分だけでなく相手もより深く理解することに繋がります。決して1人で全てやろうとするのではなく、周りの人達と共に学んでゆく。それが建築を深く理解する為に必要な事だと私はこの大学に入って知りました。



2年 陳 阿青さん
中国　出身留学生

Pick Up Student あっという間に大学生活も２年たちました。3年前、中国から留学のため日本に来日しました。1年半間ゼロから日本語を学び、そして2年前ゼロから建築を学びはじめました。自分の人生がこのようになるとは自分でも考えてもいなかったです。先生方をはじめ、支えてくれるまわりの友人・クラスメートにいつも心から感謝しています。最初は日本語が話せない、レポートが書けない、課題の進め方が分からない…と色々と悩みましたが、時間とともにできるようになってきたことが一番嬉しいです。たくさんの専門知識を得るだけではなく、世界も広がりました。人生にはいろいろな可能性があると思っています。これからも新しい世界と新しい自分を発見できるように頑張っていきたいです。